

農林センターが保存している伝統野菜の形質確認

当センターでは、京の伝統野菜の原種 32 品目を維持・保存しており、毎年数品目を定期的に栽培して採種し、発芽の良好な新しい種子に更新しています。

今年度は、鹿ヶ谷カボチャと聖護院キュウリを更新予定で、このうち鹿ヶ谷カボチャについては、10 年前に更新し保管していた種子と令和 5 年度に更新した種子を同じほ場で栽培し、収穫期前の 7 月 31 日に生育状況や果実の形状の同一性を確認しました。

今後、形状が良く充実した果実から採種し、更新種子として保存することとしています。



生育状況や果実の形状の同一性を確認



鹿ヶ谷カボチャの果実

試験研究課題:黒大豆エダマメを栽培する大規模営農組織における栽培技術

体系の確立と販売力の向上(プロジェクト研究)

(1)環境負荷を低減する持続可能な管理技術の開発

②病害虫管理技術の開発

イ 炭そ病の発生生態の解明と防除対策の確立

黒大豆エダマメ栽培で発生する炭そ病の発生調査

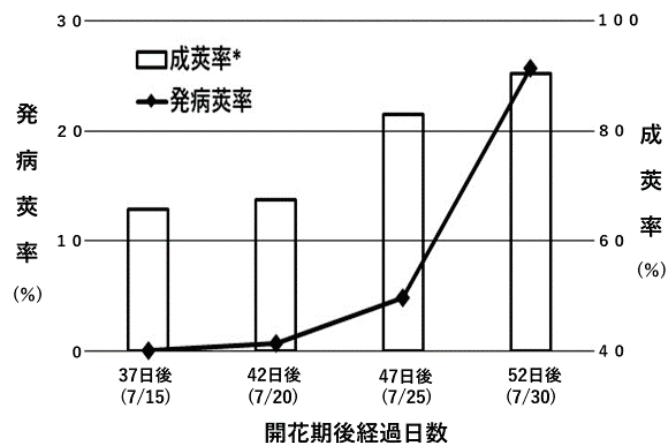
高温期に収穫する黒大豆エダマメでは、収穫期の莢に炭そ病が発生することによる品質低下が問題となっています(写真)。新品種「夏どり丹波黒3号」は収穫期が従来の品種より長く、本病の発生状況も不明なため、は種時期を変えて、収穫期をずらしながら本病の発生との関係を調査しています。

4/20 は種では、収穫適期(開花 47 日後)の発病莢率は 4.8%と低いのですが、収穫適期を過ぎると(同 52 日後)25.7%へと急激に上昇し(図)、^{さや}莢の熟度が本病の発生に影響する可能性が明らかになりました。

今後、収穫適期での本病の発生を抑える防除方法を検討します。



莢に発生した炭そ病



「夏どり丹波黒3号(4/20 は種)」における炭そ病の発生状況(2024 年)

成莢率*:全莢中の莢厚 10mm 以上莢の重量割合

サツマイモ栽培における生理障害発生の要因調査

丹後地域の開発農地では、近年「シロタ」(写真 1)と呼ばれる生理障害がサツマイモに発生し、干しいも加工時に必要な品質基準を満たせない場面が増えています。

「シロタ」の発生要因は、強い土壌乾燥に伴うイモへの光合成産物(デンプン等)の蓄積不足とされていますが、開発農地においては、具体的にどのような栽培環境で「シロタ」が発生するのかはよくわかっていません。

このため、当所では、土壌の乾燥程度や光合成速度などを調査し、開発農地の土壌条件下において、「シロタ」発生の要因を明らかにし、「シロタ」を抑制する栽培方法の開発につなげたいと考えています。



カンショの生理障害「シロタ」
(内部が白化、硬化し食味食感が低下)



光合成速度測定装置とその使用状況
(葉を装置で挟み、光合成がどれだけ効率的
に行われているか測定)

第 42 回京都府茶品評会の運営を支援

茶の栽培・製造技術の改善による府内産茶の品質向上を目指して、京都府茶品評会審査会が 7 月 9 日及び 10 日に宇治茶会館で開催されました。審査会は煎茶、かぶせ茶、玉露、てん茶の 4 部門で行われ、外観(見た目の評価)と内質(香り、味などの評価)について審査が行われました。

当所職員は審査員として審査を担当するとともに、審査補助員として円滑な審査運営に努めました。また、昨年から当所が構築した茶品評会記録集計システムを活用して審査番号をバーコード管理し、集計を IT 化することに取り組んでいます。

審査会で確認された栽培や製造における改善点は、関係機関を通じて出品者にお伝えするとともに、地域で開催される求評会などの場において品質向上の支援に活用されます。



外観審査を行う職員



関係機関とともに審査補助を行う職員

試験研究課題:パパイア輪点ウイルスに対するワクチン苗を
基幹とした総合管理体系の確立

パパイア輪点ウイルスに対するワクチン苗*を用いた検証試験

府内のキュウリ栽培では、パパイア輪点ウイルス(以下、PRSV)、ズッキーニ黄斑モザイクウイルス(以下、ZYMV)、スイカモザイクウイルス(以下、WMV)及びキュウリモザイクウイルス(以下、CMV)によるモザイク病が発生し、収量が低下する被害が生じています。近年はPRSVの発生が多いことから、本ウイルスに対する防除技術の確立が求められています。

一方で、当センターではこれまで ZYMV、WMV 及び CMV を対象にしたワクチン苗*の開発、普及に取り組んできましたが、これら既存のワクチン苗の PRSV に対する防除効果が確認できていないことから、本年度から、PRSV に対する防除効果について検証を行っています。

ZYMV、WMV 及び CMV のワクチン苗に PRSV のウイルスを人工的に接種・感染させて PRSV の感染率、収量などについて調べています。今後は、調査結果に基づき、ワクチン苗を基幹としたキュウリモザイク病の総合的病害虫管理を確立します。

※ワクチン苗: 予め病原性を弱めたウイルス(弱毒ウイルス)を苗に接種しておくことで、病原性の強いウイルスに感染しにくくなる。弱毒ウイルスを植物ワクチンと呼び、それを接種した苗をワクチン苗と呼ぶ。



調査の様子(見取りで感染具合を評価)



PRSV の感染葉

施設公開は 1,300 人の大盛況！

7月20日に、「牛(ぎゅう)と畜産に近づく」をテーマに施設公開を開催しました。今年は隣接する農業大学校の「農大マルシェ」との共同開催で、猛暑の中にもかかわらず親子連れを中心に約1,300人もの来場者が訪れ、盛大な賑わいをみせました。

当センターの催しとして「牛の乳しぼり体験」や「アイスクリーム作り」を企画したところ抽選倍率が約5倍の人気となり、参加者はみな熱心にイベントに参加していました。他にも、牛や山羊、ウサギとのふれあいコーナー、牛の健康チェック、クイズラリーなど、300人以上の方が牛舎を訪れ、暑さを忘れて夢中で体験していました。

来場者からは「普段接することのない家畜の事を色々知ることができた」、「牛の乳しぼり体験を通じて普段飲んでいる牛乳をもっと身近に感じた」などの声が聞かれ、畜産に対する理解を深める大変有意義なイベントとなりました。



アイス作り体験の様子



搾乳体験の様子

畜産センター

「丹後とり貝」の種苗配付

「丹後とり貝」は、当センターで生産した種苗を、漁業者が約一年かけて丁寧に育成したトリガイであり、京のブランド商品の一つとなっています。

今年度5月から生産を開始した種苗は順調に育成し、漁業者へ配付する時期を迎えました。殻長約1cm以上に成長した種苗は、毎年7月初旬から下旬にかけて、舞鶴湾、宮津湾及び久美浜湾のトリガイ養殖に従事する漁業者へ配付されます。配付にあたっては、トリガイの薄い殻が割れてしまわないよう、全ての工程で細心の注意を払いながら作業します。

今年度は、約54万個の種苗が無事漁業者の手に渡りました。ここからは漁業者の腕の見せ所です。来年春に向け、立派な「丹後とり貝」が育てられることを期待しています。



種苗配付の様子
(左:種苗の取り上げ、右:選別および計数、右下:選別後の配付種苗)